ノーマライゼーション実感記

障害者の方たちのイキイキした顔が、社会の豊かさのバロメーターなんです。

今年もまた、六名のくまもと女性特派員の皆さんによる県政リポートが始まります。第一回目は、小柳理枝さん（熊本市）と渕上美代子さん（菊池郡西合志町）です。

県では今、障害のある方も地域の中で共に暮らせる社会（ノーマライゼーション）をめざして様々な取組みが始まっています。在宅障害者の療育の場を地域に作っていこうという"地域療育推進事業"や知的障害者の雇用を拡大しようという"福祉工場"などがそうです。まだ耳新しいこの取組みをお二人にルポしていただきます。

「素晴らしい制度だから、もっとたくさんの人に知ってもらいたいですね」小柳さん（左）と渕上さん（右）

歌あり、体操あり。お母さんたちも楽しめるグループレッスンです

●お母さんと子どもの笑顔がステキ

地域療育通園施設 こじかえんを訪ねて

山鹿灯籠や八千代座など、伝統と文化の息吹を感じさせる山鹿市街を大宮神社に抜けた静かな住宅地に、ピンク色のしゃれた新しい建物が目に止まります。ここ、山鹿市健康福祉センター内に、在宅障害児通園施設「こじかえん」があります。専門的総合療育施設としては、熊本県こども総合療育センター（下益城郡松橋町）がよく知られていますが、同施設は、就学前の障害児を対象に、地域に根差した療育を目的とした"地域療育推進事業"の一環として、昨年十月一日よりスタートしたものです。

現在、スタッフは、保母の資格を持っている方を含む専任職員三名と嘱託医師一名の計四名で、水曜日を除く月曜日～金曜日を通園日としています。

今まで来園した子どもは延べ十六人。三歳前後の子どもが多く、常時は七人ぐらいが通園してくるとのことですが、私たちが訪れた日は三人の子どもたちが来園していました。

早速、私たち特派員もグループレッスンに仲間入り。レッスンは楽器や絵を使ったり、乾布摩擦体操を行うなど創意工夫が凝らしてあります。子どもの状態を十分に把握した熱心な指導ぶりに感心してしまいました。障害を持った子どもたちが互いに励まし合ってのびのびと遊び、学んでいる姿に、同施設のめざしていることが、直に感じられたような気がしました。

グループレッスン後は、各自部屋に分かれての個別レッスン。取材させていただいた子どもさんは、ろう学校に毎日通いながら、週一回、同施設に通園しているとのこと。「私たち母親の要望を聞き入れて、子どもに合った指導をしてくださるんですよ」とお母さん。いきいきと遊んでいる子どもさんの姿と共に、お母さんの明るい表情も印象的でした。

同施設はスタートしてまだ半年ですが、月一回、県のこども総合療育センターなどからの指導を受けたり、心と体の相談日を設けたりしています。職員の皆さんは、少しでも家族の身体的、精神的支えになれたらという前向きな姿勢で取り組んでいらっしゃいます。障害児を持つ母親同志がネットワークを作り、呼び掛けていったことが、行政を動かした例もあるとか。子どもの能力を伸ばし育てていくかどうかは、お母さん方の積極的な姿勢次第だと思います。まず、扉を叩いて、気軽に相談してみてはいかがでしょうか？

（熊本市　小柳理枝）

「水気をよく切ってね」
「はい、分かりました」と2人

「八浪理事長の熱意に心打たれました」

●知的障害者の方々に働く喜びを

熊延観光福祉工場を訪ねて

「これまで雇用してきた知的障害者の働く場を将来にわたって確保しておきたい」。ある社長の情熱が、就職が困難な知的障害者に就労の場を提供しようと「熊延観光福祉工場」（熊本市・八浪敏恵理事長）をスタートさせました。福祉工場としては県内で二カ所目。企業中心運営という点では全国初の試みです。

八浪理事長は、これまで弁当製造・販売業を営む中でたくさんの知的障害者を雇用してきた実績を生かし、さらなる基盤の安定化と雇用の拡大を目ざして平成六年四月に法人を設立しました。雇用者の中には勤続二十年や十年の知的障害者の方々が含まれています。知的障害者の雇用にいかに努力してこられたかが分かります。

同工場では弁当を製造していますが、私たちが訪れた時は、午後ということもあって、後片付けと翌日の仕込み作業が行われていました。十五名の知的障害者の方々が六名の作業指導員と共に手際良く、いきいきと働いていました。多い時は、四千食も製造されるということです。今までの企業経営ノウハウが十分生かされていると感じました。職員には生活指導員や看護婦もいて、知的障害者の方には最低賃金が適用されるなど、一人一人を大切にした運営が行われています。利潤追求を最優先する一般企業では、なかなか出来ないことかもしれません。

福祉工場に勤める場合は、家庭からの通勤が原則とされています。しかし、将来的には、障害者の人が自立して暮らせる福祉ホームやグループホームを考えられています。障害者の人たちが安心して働き生活できる受け皿の確立や施設間のネットワークがぜひとも必要だと感じました。

「商品の需要を増やし、一人でも多くの知的障害者に就労の場を」と上村清秋施設長。三十年前の一人の知的障害者との出会いから、福祉工場にまで発展させた八浪理事長の"人間は平等"という強い信念と根底に流れる大きな人間愛を感じずにはいられません。

今後も、このような福祉工場が当たり前のように設立される熊本であってほしいものです。

ハンディがあっても、地域の中で共に生きることができるやさしいまちづくり。ハンディのある方たちがどれだけ心豊かに暮らしていけるかは、社会の豊かさのバロメーターでもあるのです。"福祉"という言葉の奥深さを考えながら、家庭的な温もりに包まれた工場を後にしました。

（菊池郡西合志町　渕上美代子）

地域療育推進事業

障害児(者)にとって、地域のなかで安心し、生きがいを持って生活するためには、障害の軽減や回復のための療育が欠かせません。地域療育推進事業は身近な場所に療育訓練の場を設け、障害児(者)が気軽に療育を受けられると共に家族の負担の軽減をめざすものです。

「こじかえん」は、就学前児の集団生活適用訓練、日常生活の基本動作の訓練を通して、幼児の育成の援助を目指す、山鹿市社会福祉協議会が運営する地域療育センターです。

「こじかえん」に関するお問い合わせ
〒861-05　山鹿市中578
山鹿市健康福祉センター内
山鹿市社会福祉協議会
TEL 0968(43)1134

福祉工場

作業能力のある障害者を指導員の指導の下で作業に従事させ、自立した社会生活を送らせることを目的とするものです。

行政主体の運営が多い中で、「熊延観光福祉工場」は企業の１部門を社会福祉法人として独立させるといった全国でも初めての試みで注目を集めています。

「熊延観光福祉工場」に関するお問い合わせ
〒860 熊本市萩原町１番３号
社会福祉法人　恵熊会
熊延観光福祉工場
TEL 096(378)4294

福祉ホーム、グループホーム

グループホームは、社会適応能力向上のため、指導員のもとで障害者が集団生活を通して社会訓練を受ける施設です。一方、グループホーム入所者より生活能力の高い障害者を単独で生活させ、社会的自立を目指す施設が福祉ホームです。